

(第三種郵便物認可)

神奈川県大井町の東名高速道路で6月、追い越し車線に無理やり停止させられた夫婦が追突死した事故は、来年も裁判員裁判が始まる見通しだ。事故時に車を降りていた

追跡 2017

6

被告に「運転行為」を前提とした自動車運転処罰法の危険運転致死傷罪が適用できるのか。専門家の賛否も割れており、公判では最大の争点になる見込み。検察側は立証に全力を挙げる方針だ。

東名高速 夫婦死亡追突事故



自動車用品販売店でドライブレコーダーを見る客
＝横浜市内

「運転行為」裁判の争点

年末年始の帰省シーズンを車用品販売店ではドライブレコーダーが見られた。購入を検討していた50代男性は「事故でトラ

ブルになった際、画像で証拠も残り安心だ」と話した。

レコーダー急増

夫婦の車の進路をふさいで停止させ事故を誘発したとして、神奈川県警は10月10日に石橋和歩被告(25)を逮捕し

東名高速夫婦死亡事故 6月5日夜、神奈川

川県の東名高速道路で静岡市の一家のワゴン車にトラックが追突し、夫婦が死亡、娘2人がけがをした。起訴状によると、石橋和歩被告が現場直前のパーキングエリアで駐車方法を注意され、逆上り、ワゴン車を追い掛け停止させたとして

た。大型トラック追突までの経緯が報道されると、あおり行為など悪質運転への自衛策としてドライブレコーダーの売り上げが急増した。

神奈川県警の当初の逮捕容疑は同法の過失致死傷罪。横浜地検は同31日、捜査で当時通行していた車のドライブレコーダーや目撃証言から「減速して接近する行為を繰り返した、具体的な速度も明らかにした」と(捜査関係者)として、より罰則の重い危険運転致死傷罪での起訴に踏み切った。

一方、交通事故に詳しい高山俊吉弁護士は「停止させることも運転行為としたのは、罪の想定範囲を逸脱している」と疑問を呈した上で、悪質運転に対する世論の盛り上がりから危険運転罪適用の背景にあったとみる。

検察の判断評価

だが、公判では車を停止させる行為や、その約3分後に起きた事故を危険運転罪に問

誰かが悪質運転の被害者になる可能性はあるが、高山弁護士は「裁判員には冷静な判断が求められる」と指摘した。